

左：村松さん（若手IT担当）、右：徳原 佳久さん（DXスクール受講生）

## 70年の歴史を次代につなげる基盤づくり

地球にも人にも優しい100%再生紙のトイレットペーパー製造で、70年の歴史を誇る藤枝製紙。その尊い歴史を次代に受け継ぐために、徳原さんは未来を見据えた組織風土改革を目指して、DXの道を歩み始めました。

### 体質改善の必要性を感じてDXスクールへ

DXスクールを受講した理由は、単なるツール導入ではなく、組織の体質改善につながる本質的な内容に魅力を感じたからです。自社の70年の歴史で培われた経験重視の価値観は大切にしたいと思いつつも、変化に対応できない組織ではその歴史を守れないという危機感がありました。

そこで、DXを切り口に全社的な変革のアプローチを試みよう決めました。

### 身近な業務のデータ化 草の根的活動積み重ね

まずは昨年入社若手社員と総務・人事業務でスタート。例えば、作業着等の備品をMicrosoft Formsで管理し、効率化やミス削減、履歴もデータ化されました。

現場のIT機器活用やリテラシー向上の支援業務のデジタル化も推進中です。IT機器の不具合は、現象と対処法をスプレッドシートに記録。経験値の共有ができるようになりました。経験重視の文化があ

る組織なので、トラブルや困りごとが生じたときにデジタルの利便性を体感してもらうのが効果的。アイデア整理や書類作成に役立つAIや各種のクラウドシステムを試しつつ、現場の温度感も確かめながら支援活動を継続中です。

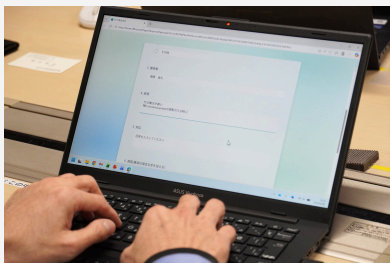
#### DX事例

##### 社員のITリテラシー向上

デジタル化支援体制を強化  
(若手社員を1名採用して増員)

トラブル・困りごとへの対応充実  
システム化・履歴管理で  
ノウハウ蓄積

### 膨大な情報をデータ化、分析・活用して価値共有



今後は、紙で保管している製造日報や不具合品対応の記録などをデータ化し、検索性を高めて活用したいと考えています。70年分のデータは貴重な資産。分析・

活用することで新たな価値が生まれそうです。現場の社員に「データ化すると便利だ」と実感してもらえれば入力作業もデジタル化され、効率化が加速。全社的なDX推進に発展する頃、どんな組織に進化しているかが楽しみです。

### ふじえだDXリーダーズ プロフィール

- 【氏名】 徳原 佳久（とくはら よしひさ）  
【所属・担当】 藤枝製紙株式会社 / 総務部主査  
【IT経歴】 2023年にDXスクールを受講し、本格的にDX推進に取り組み始める。草の根的なアプローチにより、社内のデジタルリテラシー向上と同時に、DXによる組織風土改革に取り組んでいる。

Webサイト



活用している  
DXツール

- Microsoft 365
- Google フォーム
- Notebook LM
- ChatGPT